

長期化する訪問リハビリテーション 利用者の現状と今後の課題

～脳血管障害者の希望する訪問リハに焦点を当てて～

- 1)医療法人社団 らぽーる新潟 ゆきよしクリニック
- 2)医療法人社団 らぽーる新潟 ゆきよし訪問看護ステーション
- 3)社会福祉法人豊潤舎 新潟県障害者リハビリテーションセンター

清水 美穂 (OT) ¹⁾²⁾ 板垣 沙織 (PT) ¹⁾²⁾
北上守俊 (OT, ST) ³⁾ 荻荘 則幸 (MD) ¹⁾

はじめに

- 当法人は平成12年より、訪問リハビリテーション（以下、訪リハ）を開始し、平成24年には訪問看護ステーション（以下、訪看）を併設
- 平成25年度は416名だった利用者数は、平成26年4月1日時点で**452名に増加**
- リハビリスタッフは、PT20名、OT14名、ST3名
- **脳血管障害者は当法人の訪問リハの全体の33%（152名）**
- **本調査は脳血管障害者を対象にした**

対象

- 平成26年4月1日時点で、当法人の訪問によるリハビリ(訪リハ・訪看)を利用している脳血管障害者152名

方法

- 対象者の基本情報収集

性別，年齢，介護度，訪問頻度・単位

- 対象者にアンケート

リハビリで希望する内容

- 訪問担当者にアンケート

リハビリの実施内容

- 重度の言語障害，高次脳機能障害などで，聞き取りが困難な方は対象から除外
- 書字が困難な場合は聞き取りとした

アンケート実施者は110名(回収率72.4%)

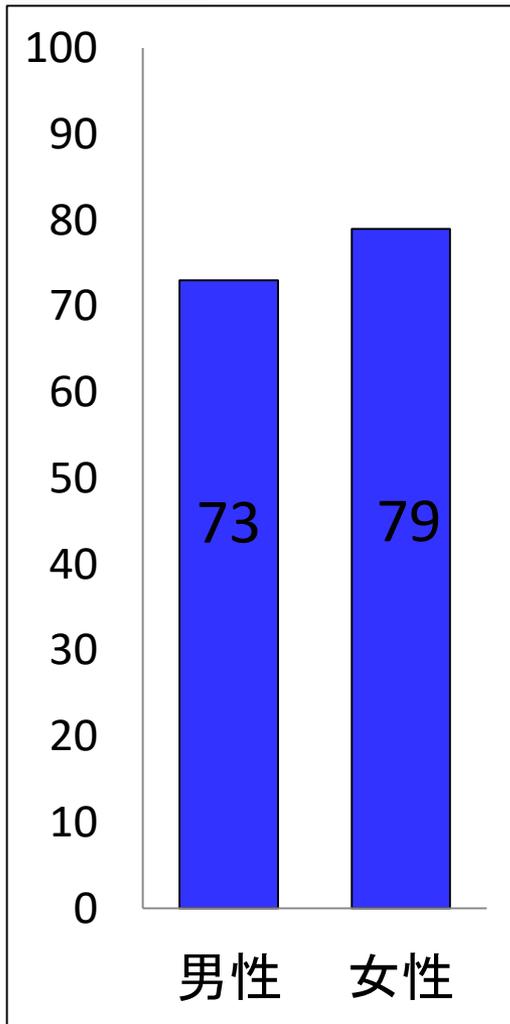
アンケート内容

- **対象者**:リハビリで希望する内容(3項目まで複数回答可能)
- **訪問担当者**:実施内容(複数回答可)

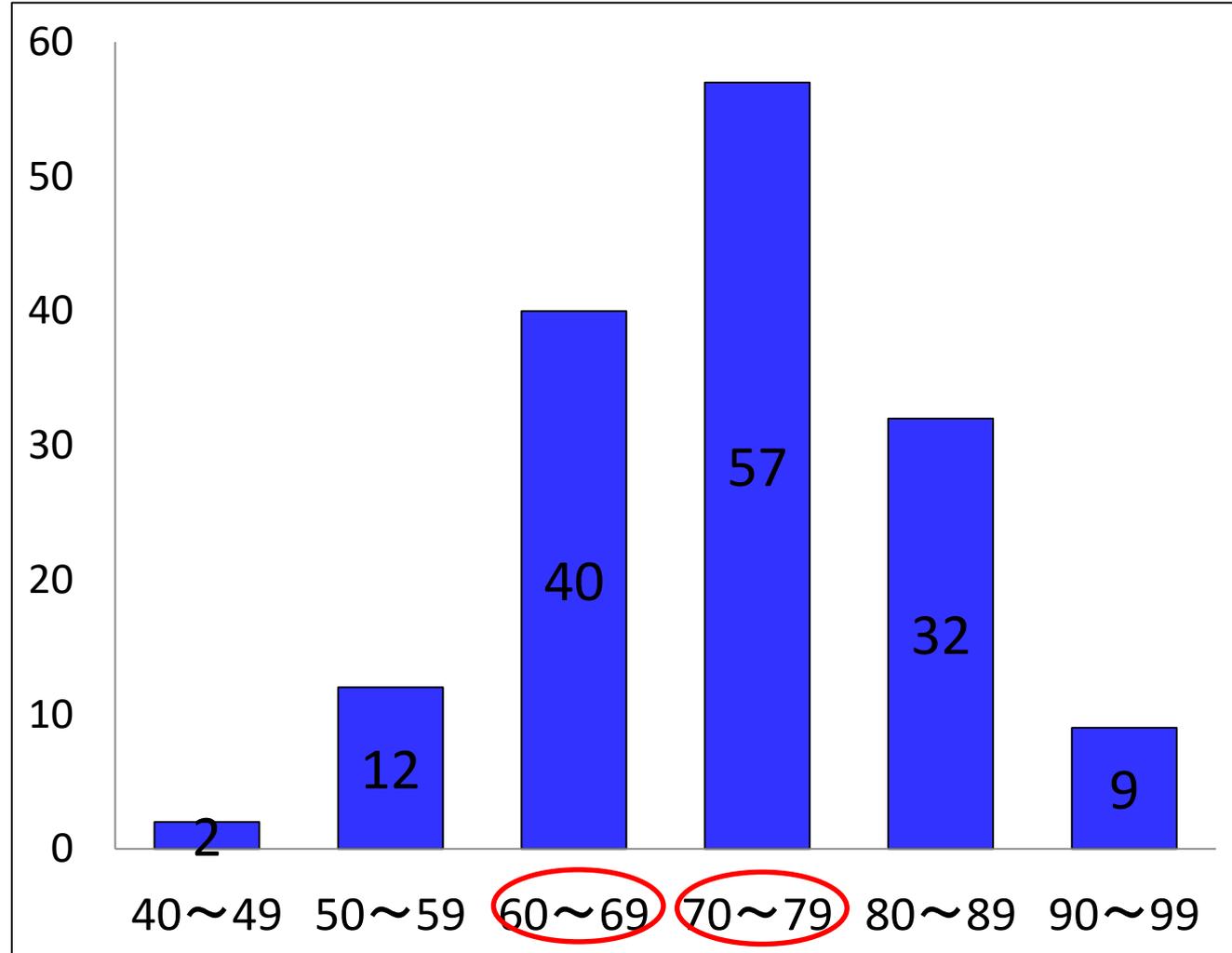
手足を動かす訓練	住宅改造の相談
起き上がりの訓練	転倒予防訓練
立ち上がりの訓練	筋力強化訓練
歩行訓練	関節可動域
入浴訓練	口腔ケア
トイレ動作訓練	言語訓練
衣類の着替え訓練	嚥下訓練
家庭でできる体操の訓練	その他 ()
寝たきりを防ぐ訓練	
生活指導	

結果

性別

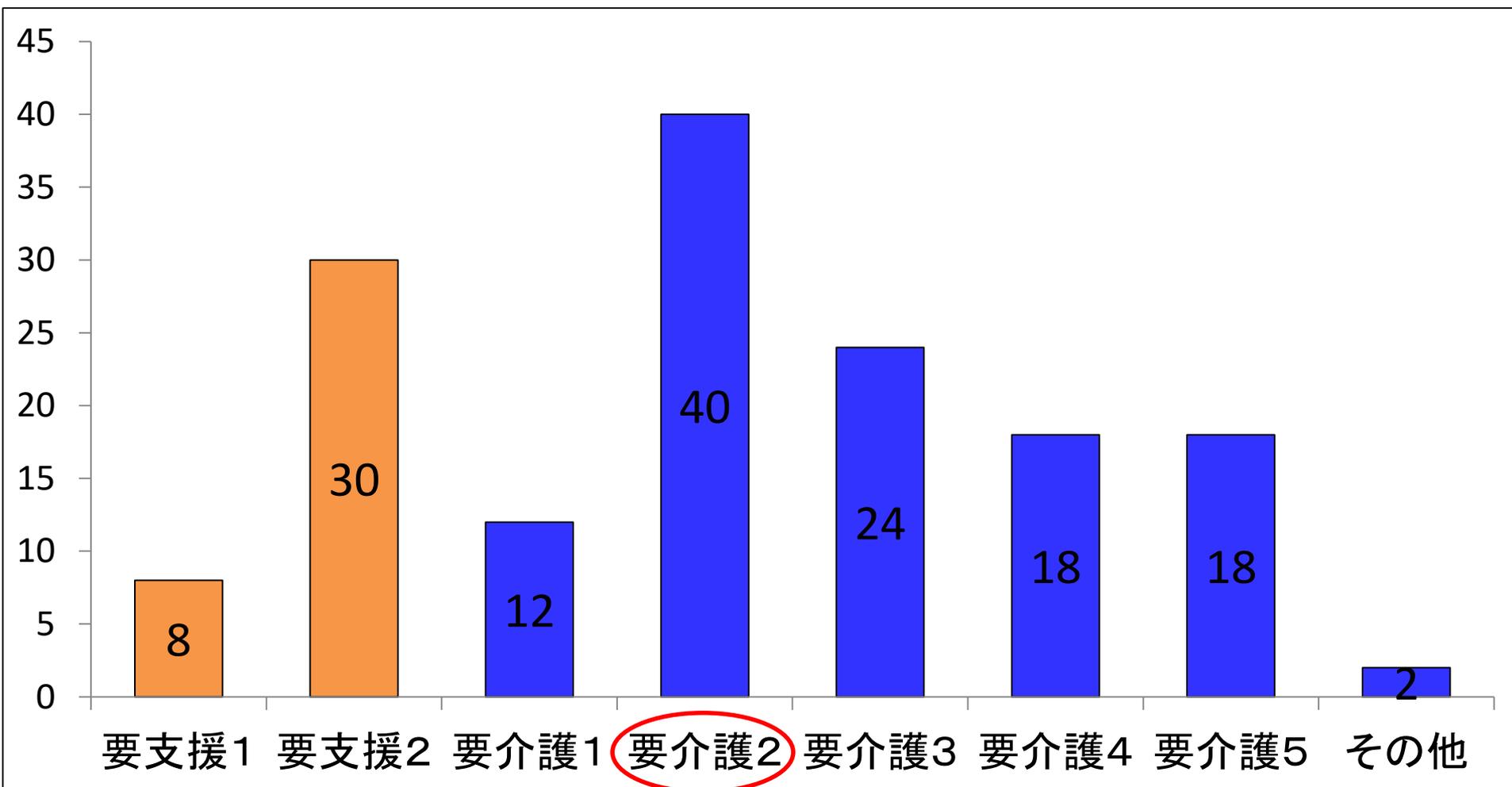


年齢



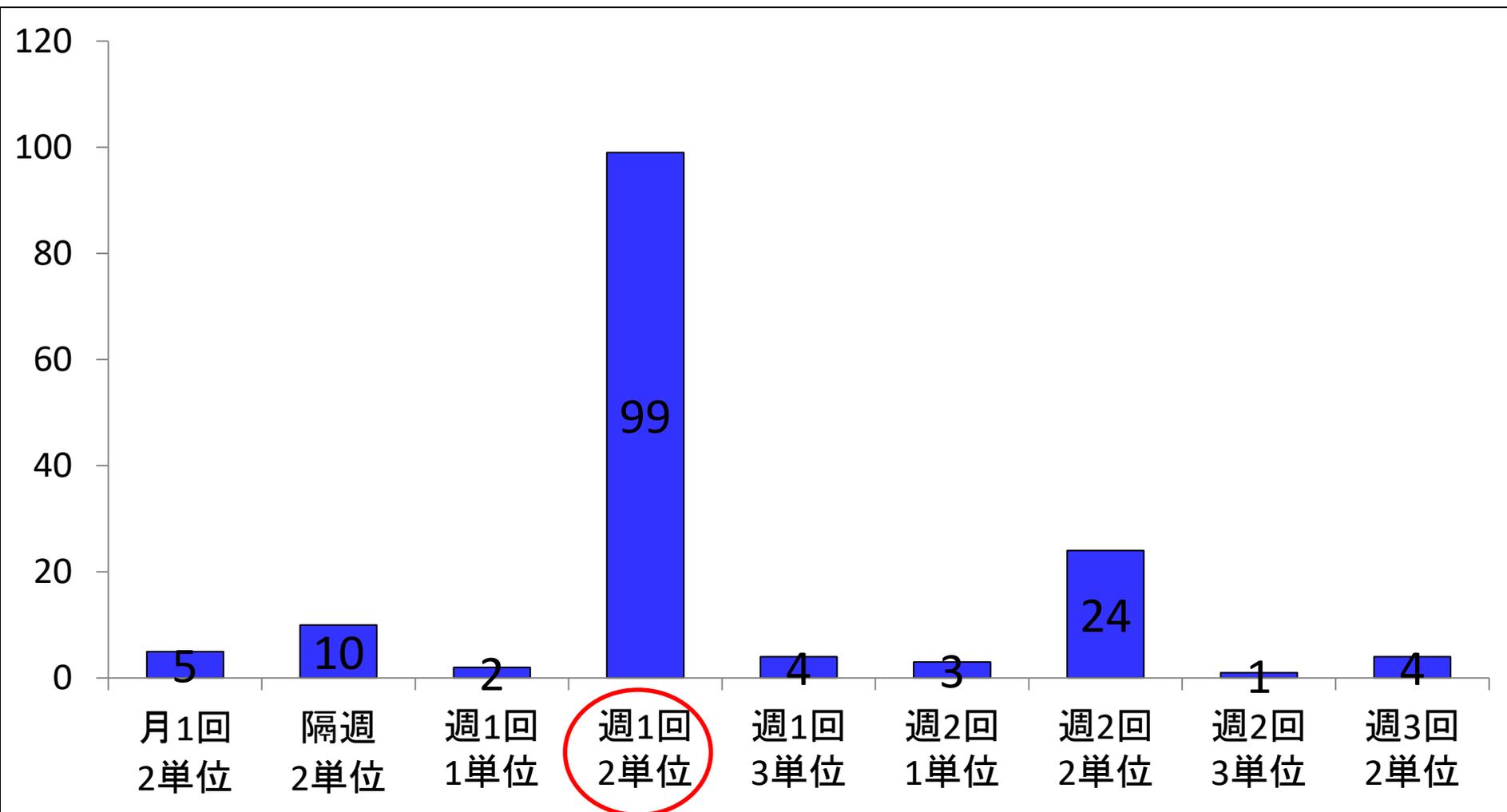
• 60~70歳代が多い

介護度



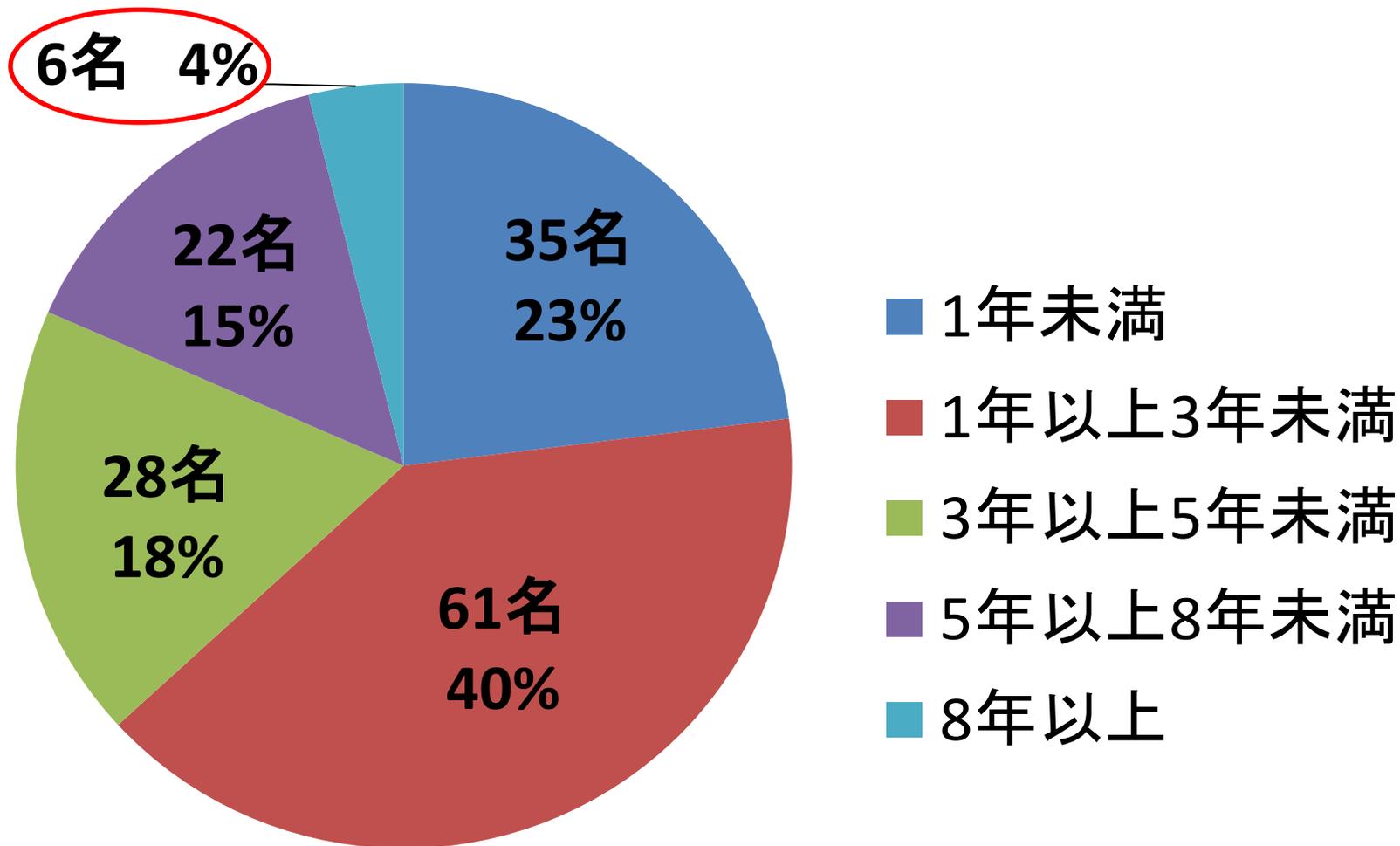
- 要支援: 38名 (25%)
- 要介護: 112名 (74%)
- その他: 2名 (1%)

訪問頻度・単位

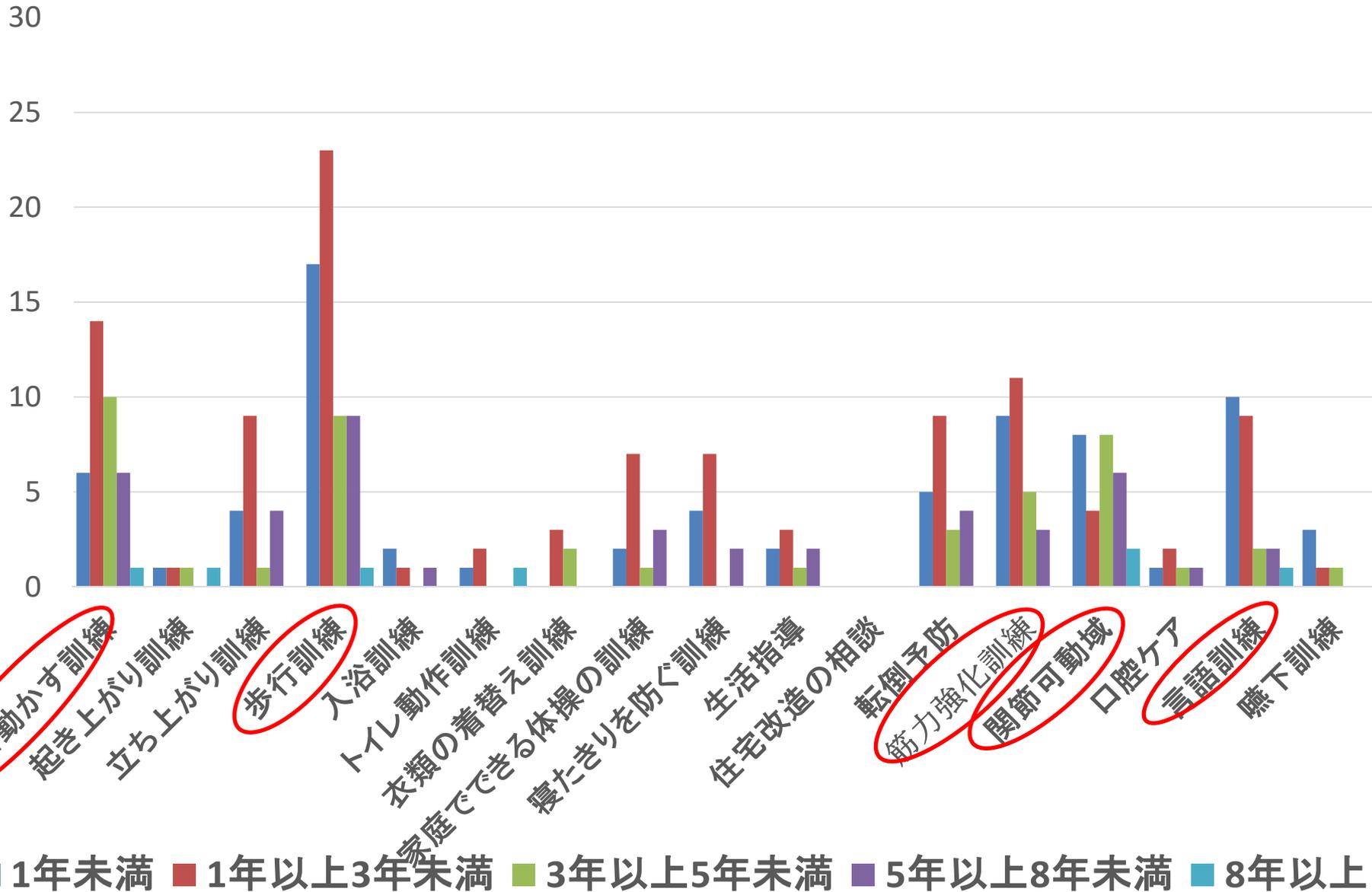


- ・ 週1回 2単位が約65%

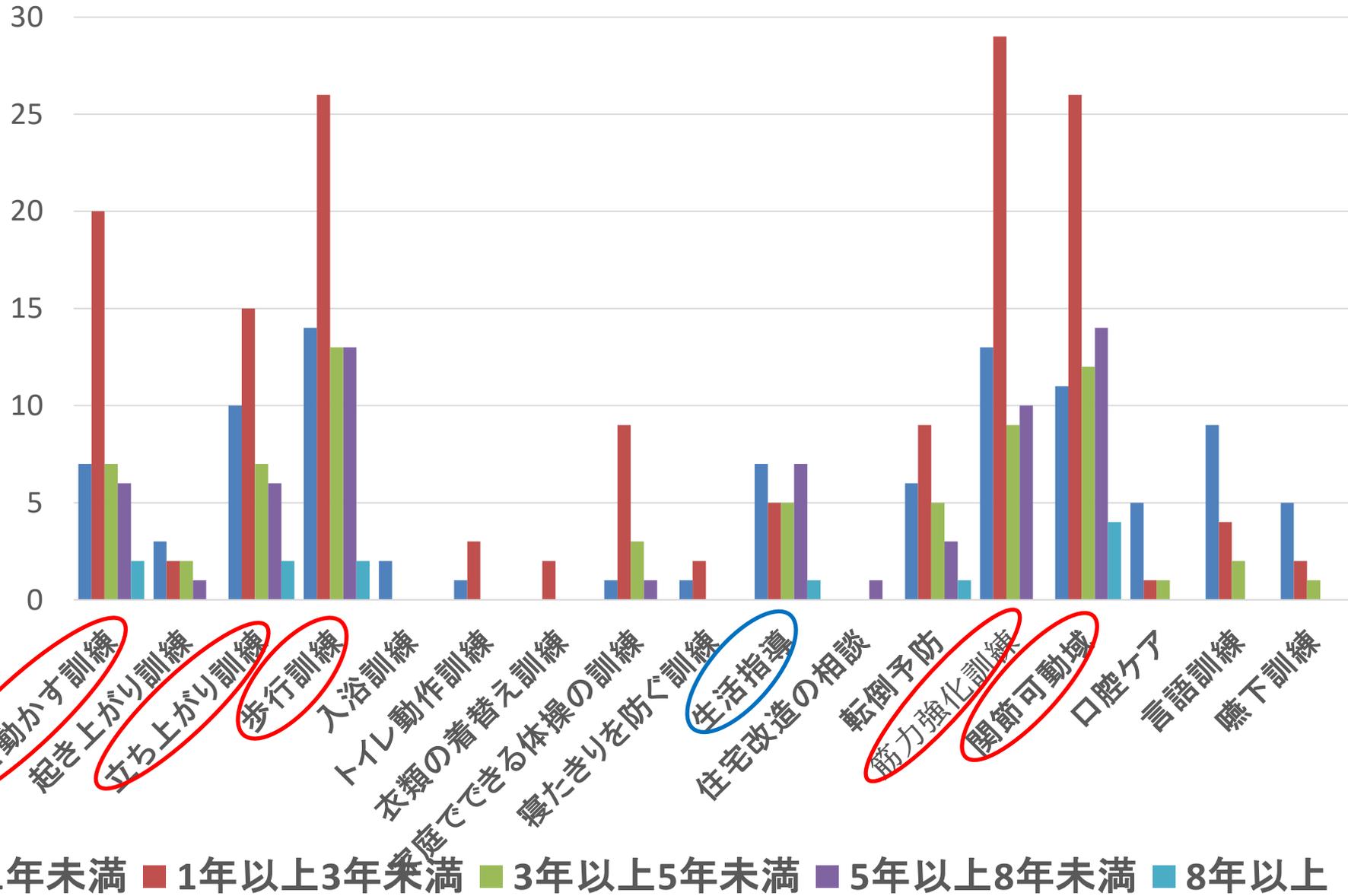
訪問繼續期間



対象者の希望する内容



訪問担当者の実施内容



結果のまとめ

～当法人の脳血管障害者の特性～

- 男女差はなく, 60～70歳代が多い
- 要支援が25%, 要介護が74%
- 訪問頻度・単位数は週1回2単位が65%
- 訪問継続期間は1年以上3年未満が40%
- 訪問継続期間が8年以上の対象者(以下, 長期利用者)は6名

～アンケート結果から～

- **対象者**の希望は, 歩行訓練, 手足を動かす訓練, 筋力強化訓練, 関節可動域が多い
- **訪問担当者**の実施内容は, 歩行訓練, 関節可動域, 筋力強化訓練が多い
- 長期利用者は, 関節可動域, 手足を動かす訓練, 起き上がり訓練, 歩行訓練, トイレ動作訓練, 言語訓練を希望していた.
- 長期利用者に対しての実施内容は, 関節可動域, 手足を動かす訓練, 立ち上がり訓練, 歩行訓練, 生活指導, 転倒予防だった

考察

対象者

歩行訓練

手足を動かす訓練
筋力強化訓練
関節可動域

機能訓練

訪問担当者

歩行訓練

関節可動域
筋力強化訓練

明確な目標設定が困難＝長期化

考察

➤ 目標設定の明確化

他職種と連携し、対象者のニーズを捉え目標を共有

➤ リハビリ実施内容の検討

先行研究(ト部2012)より、機能回復以外の理由で訪リハを選択し継続する場合は少なくない

身体機能だけでなく多面的な定期評価を実施し、生活機能につなげる支援が必要